

陳情第 1 2 号 国の私学助成の拡充に関する

意見書の提出を求める陳情書

討論一覧(討論順掲載)

反対討論 菱川和英 議員

私学の就学支援金に疑問

私立学校には幼児期から大学まで進学できる私学か、中学から高校に進学できる私学が大多数である。受験の苦労を回避するために授業料が高いのを承知の上で、あえて私立校を選択している私学生が多くを占めている現況から、すべての私学の「就学支援金」を一層拡充するという要望には違和感を感じる。

賛成討論 門原武志 議員

私立授業料の平均までの補助制度

教育内容などから学費が高い学校を進んで選んでいる人の学費を補助する必要があるのかとの意見があるが、私立高校の学費の平均まで助成するための制度であり、平均より高い学費まで助成する制度ではない。添える。

反対討論 山下茂 議員

次に本陳情の前提条件であります公私格差に関してですが、確かに入学金や授業料に関しては総じて私学は公立より高額であり、それに関し異議を唱えるつもりはありません。しかしここで同時に、私学の各種設備やホスピタリティーの充実度は、公立のそれを遥かに凌駕するものであるという事実にも目を向けなくてはなりません。そして子どもたちもその保護者も又、それら公立には高校にはない環境整備が進学先を選ぶ要素にもなっており、正に学校経営も人気商売です。そして経常経営に必要な一定の生徒数を確保するために、毎年のように公立高校の定員削減が行われているのです。志をもってこれを学びたいからこの私学に進学したいとの明確な動機を持つ子どもたちもいるが、そういう子どもたちが経済的理由で進学を諦めたりすることのないように、私学経営支援に充てるお金を止め、そのお金を給付型奨学金と言う形で直接生徒に支援すべきと考えます。